

平成25年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合議会

議員視察報告

視察場所 国崎クリーンセンター（猪名川上流広域ごみ処理施設組合：川西市）  
豊中市伊丹市クリーンランド（豊中市伊丹市クリーンランド：豊中市）

視察日時 平成25年10月24日（木）

参加者 藪内留治 議長・河合馨 副議長・稲田悦治 議員・桑原佳一 議員・鳥居宏次 議員・  
中井良介 議員・米田貴志 議員・明石輝久 議員・阪口勇 議員・田中学 議員・  
松波謙太 議員・森美佐子 議員

視察目的 竣工後の整備費用と施設更新計画等について  
周辺地域住民の施設への関心度合いと構成自治体間の処理施策について  
最新リサイクルプラザの内容と資源活用策について

視察内容 施設視察及び業務内容調査

業務内容に関する主な調査事項は下記のとおりであるが、これらの事項に加えて、当組合議員からは、ごみ処理経費、市町村別のごみ施策の違い、今後の施設のあり方についてなど活発な質疑があり、大変有意義な視察であった。

[業務内容に関する主な調査事項]

実施日	施設名	所在地	能力・規模等		竣工
平成25年 10月24日	国崎クリーンセンター	兵庫県川西市	焼却炉 117.5 t × 2 炉	発電容量 5,000KW	H21年3月
	豊中市伊丹市クリーンランド リサイクルプラザ	大阪府豊中市	焼却炉 225 t × 3 炉 195 t × 1 炉	発電容量 2,000KW × 1 基 5,000KW × 1 基	H24年3月

<国崎クリーンセンター>

猪名川上流1市3町で構成されており平成21年3月に竣工している。過去にダイオキシン汚染の問題があり周辺住民との環境保全基本協定を締結し、工場からのダイオキシン類の総量規制値：2 μg/ごみ1 t 以下（目標1 μg/ごみ1 t 以下）になっている。現在も灰溶融炉が都市ガスで稼働しており燃料費が年々上昇している。

啓発展示にはごみ選別で発生した不適物の展示などもあり、啓発の一環として利用されていた。

- ・薬品等の使用状況
- ・竣工後の主な整備費用とポイラー設備の整備経過と今後の更新計画
- ・溶融施設の稼働状況及び維持管理費、燃料費等
- ・リサイクルプラザの機器の維持管理費と更新計画等

以上については、資料の提出と内容の説明があった。

◆周辺地域住民のごみ処理施設への関心度合いと住民協定等について

過去に、施設の近隣地域においてごみ焼却施設で高濃度のダイオキシン汚染が検出されたことがあり、周辺地域住民は、当施設の建設決定当初から環境への影響を懸念され、建設反対運動を展開される状況であった。そのような経緯により、施設から発生する排ガス、排水、悪臭はもとより、周辺の生活環境に与える影響についての関心は非常に高いものとなっている。

そういった状況で、排出基準の遵守や施設の適正な維持管理を前提として、施設稼働後における問題を速やかに解決するため、施設組合と周辺地区自治会とで環境保全基本協定を締結した。また、周辺住民協議会を開催し、定期的に施設の稼働状況や環境影響調査を報告している。

◆構成自治体間におけるごみ処理施策の違い等の問題点について

構成自治体では、それぞれ、ごみ処理基本計画を策定し、施策を行っている。ごみの収集方法は、各市町で取り扱いが違うものの、分別の種類等は統一されており、特に問題は生じていない。

<豊中市伊丹市クリーンランド>

リサイクルプラザは平成 24 年 3 月に竣工している。処理品目は不燃ごみ、ペットボトル、ビン、プラスチック製容器、缶、古紙。古布、剪定枝を処理している。選別は大部分が手選別で一部には障害者の方が就労している。現在新ごみ焼却炉施設が建設中で平成 27 年 3 月末竣工予定である。

啓発展示にはごみ選別で発生した不適物の展示などもあり、啓発の一環として利用されていた。

◆最新リサイクルプラザの視察と新たな資源活用策等について

資源物系統の処理については 7 種類の選別系統があり、プラスチック製容器包装。缶類・びん類・ペットボトルの選別のラインは、ほとんどが人による手選別を採用している。

資源化率は 57.6%で、プラスチックの選別精度は 93%の A ランク、ペットボトルは 148 点中の 145 点と高い精度を保っている。

◆余熱利用設備の運営について

現在利用していない。

◆構成市間におけるごみ処理施策の違い等の問題点について

特に問題はない。